**239** 長期後のTℓ-201 uptakeからみた急性心筋梗塞におけるIn-111Anti-myosin集積の意義

森孝夫，鐵寛之，吉田浩（兵庫県立姫路循環器病センター），和気誠司，紀田利（同放科）

In-111標識Anti-myosin(InAM)集積の意義を検討するため，左前下行枝（LAD）病変による初回梗塞12例（11例は自然開通又は再灌流成功）で，早期，慢性期，長期後（9ケ月）のLAD領域Tℓ-201 uptake（TℓUK）と急性期InAM集積範囲（Ex指数），集積強度（Se指数）を比較した。長期後TℓUK60%以上の8例（1群）のEx指数は11±2，Se指数は17±5に対し，TℓUK60%未満4例（2群）のEx指数は12±3，Se指数は21±8であった（N.S.）。TℓUKは早期，慢性期も1群で2群に比し高値であった。以上，心筋梗塞急性期のInAM集積は必ずしも長期後の梗塞領域TℓUKを反映しないことが示唆された。

**240** In-111抗ミオシン心筋シンチによる急性心筋梗塞サイズの定量的評価

板野緑子，成瀬 均，山本寿郎，森田雅人，福武尚重，川本日出雄，大柳光正，藤谷和大，岩崎忠昭（兵庫医科大学第一内科）福地 稔（兵庫医科大学核医学科）

急性心筋梗塞17例においてvoxel counter を用いて，In-111抗ミオシン心筋シンチ(InAM)による梗塞サイズの定量的評価を試みた。voxel counter によるInAMとピロリン酸心筋シンチの比較では相関がなかったが，ブルズアイによるタリウムextent scoreとはr=0.72(p<0.01)，severity scoreとはr=0.65(p<0.05)，心エコーによる壁運動異常指数とはr=0.69(p<0.05)の相関があった。以上よりInAMによる梗塞サイズの定量的評価はタリウムの欠損や壁運動異常と相関しており，臨床的に有用であると思われた。

**241** 急性心筋梗塞におけるIn-111抗ミオシン心筋シンチ集積程度の定量的評価

板野緑子，成瀬 均，森田雅人，山本寿郎，福武尚重，川本日出雄，大柳光正，藤谷和大，岩崎忠昭（兵庫医科大学第一内科）福地 稔（兵庫医科大学核医学科）

急性心筋梗塞におけるIn-111抗ミオシン心筋シンチ(InAM)集積の強さの定量的評価を試みた。急性心筋梗塞16例のプラナー像で心筋，肺，上縦隔，中縦隔，肝における関心領域(ROI) 内平均カウント値を計測したところ，心筋と分離が良好で症例間のばらつきが少ない肺がcontrol として適切と思われた。心筋－肺／肺のカウント値をInAM uptake index(IUI)とし，InAM集積程度の指標とした。視覚的なInAMの3段階評価と IUIの比較はgrade 1: 1.19±0.18, grade 2:1.28±0.36, grade 3: 1.76±0.02と相関があった。IUIはLVG による局所壁運動と相関を示したがEF,CI,peakCKとは相関がなかった。

**242** Quantitative Assessment of Myocardial Infarction by In-111 Antimyosin Antibody

MC Lee, KH Lee, YH Choi, J-K Chung, YB Park, C-S Koh, College of Medicine, Seoul National University, Seoul, Korea

We determined the accuracy with which infarcted myocardial mass can be measured using SPECT and radiolabeled antimyosin antibody. Seven patients with acute myocardial infarction and one stable angina patient were injected with 2 mCi of Indium-111 labeled antimyosin antibodies. Planar image and SPECT was performed 24 hours later.

Planar image showed all infarct patients to have positive uptakes in the cardiac region. The angina patient, however, showed no such abnormal uptake. Infart size was determined from transverse slices of the SPECT image using a 45% threshold value obtained from a phantom study. Measured infarct size ranged from 40 to 192 grams. There was significant correlation between the infart size measured by SPECT and that estimated from serial measurements of CPK (r=0.73,p<0.05).

**243** myosin light chainの臨床的意義－心筋壊死を臨床上伴わないと考えられる症例において－

吉田 裕，坂田和之，森 典子，横山正一，星野恒雄，鏑木恒男（静岡県立総合病院循環器科） 望月 守，武沢 充，松本恭徳，吉村正己（同 核医学科）

myosin light chain(MLC)が有意に上昇した症例で臨床上心筋壊死を伴わないと考えられた13例を検討した。MLCの値は6.6から>100(scale over) ng/mℓで心筋梗塞や心筋炎に比し高値をとるものが多かった。基礎疾患は心不全、胸膜炎、感染症、脱水、ネフローゼ症候群、一酸化炭素中毒、肝硬変、心室頻拍と多岐にわたった。高齢者が多く、creatinineは0.8-2.1mg/dℓ Ccrは11-35mℓ/min で腎機能低下を認めた。CPKは38-8660 IU/l, CPK-MBは3-433 IU/lで、MLCとの間には相関は認めなかった。高齢者の心筋梗塞におけるMLCは梗塞量に比して高値をとる可能性があり、その値の解釈には充分な注意を要すると考えられた。

**244** 急性心筋梗塞におけるﾐｵｼﾝ軽鎖Ⅰ測定の意義

細井益宏、岡本 淳 、若倉 学 、奥住一雄、山崎純一 森下 健（東邦大学第一内科）
矢部喜正（同 循環器診断センター）

急性心筋梗塞の重症度判定にﾐｵｼﾝ軽鎖Ⅰ（LCI）の血中濃度測定が有用であるかを検討した。対象は急性心筋梗塞37例で、acute coronary intervention施行群（Ⅰ群）と非施行群（Ⅱ群）に分けた。各群のCPKとLCIの血中濃度を経時的に測定し推移を把握するとともに発症約1ヶ月後に施行した$^{201}$Tl負荷心筋ｼﾝﾁよりBull's eye法を用いて算出したextent scoreと各群のpeak CPK値およびpeak LCI値との相関を検討した。peak CPK値、peak LCI値は両群間に有意差はなく、extent scoreとpeak LCI値との相関はⅠ群でr=0.669と有意な正の相関が得られ、この群では急性期のpeak LCI値が1ヶ月後の心筋障害をよく反映していると考えられた。

Presented by Medical*Online